

5月20日(水) 1校時 国語科 9年生 [9年2組教室]
4校時 国語科 9年生 [9年1組教室]

指導者 清川 新菜

1 単元名 学びて時に之を習ふー「論語」から

2 単元設定の背景

単元観

論語は、中国古代の思想家、孔子やその門人および当時の人の言行が、孔子の死後、門人たちによって編集され、成立したものである。ここで取り上げる章句はいずれも格言や故事成語となっており、学ぶことや人間関係のありようについて述べている。孔子の生き方、ものの考え方として捉えるとともに、現在の自分たちの生活と結びつけて考えることに適した教材である。また、日常生活でも聞いたことがある章句が多いため、音読を取り入れながら漢文独特の文体に読み慣れさせ、言葉の意味内容の習得ができる教材である。

生徒観

本学級の生徒は、7年生で故事成語を、8年生では漢詩を学習しており、漢文訓読や歴史について習熟している。しかし事前に実施したアンケート調査によると、「漢文訓読がよくわからない。」「言葉遣いに慣れず、内容を理解することが難しい。」などの記述があった。このことから、漢文訓読や歴史についての知識はあるが、自分たちにとって読み慣れていない文体であるため、苦手意識を持っている生徒が多いと考えられる。また、内容読解について、『論語』に限らず生徒にとって古典は「昔のもの」であり、現在の自分たちの考え方とは乖離しているものであるという意識から、抵抗感をもつ生徒が多いと考える。

集団観

本学級の生徒は、学習課題に対して前向きに取り組んでいる様子が見られる。また、上記アンケートにおいて、「友達と交流することで考えを深めることができて」「交流をすることで自分にはない考えを知ることができて」という記述がみられた。また、授業観察においては、本文を根拠に自分の考えを話す姿や、他者との交流から自分の考えを構築する姿があった。

指導観

本単元では、『論語』に表れた孔子のものの見方や考え方を、自分の生活や体験、他者の考えと比べながら読み解く力を育成する。そのために、作者の心情や情景を読み取り、孔子の人間の生き方に対する鋭い観察や思索に触れ、現代の自分たちの生活と比べながら考えを構築させたい。手立てとして、振り返りの法則や書き下し文への直し方といった漢文訓読の復習を丁寧に行うこと、漢文の内容を身近に感じられるよう、孔子の考えと自分の日常生活と結びつけて考えさせることに取り組む。また、個人で考えた意見をもとに、ホワイトボードを活用し、グループ活動を取り入れることで交流し、自分の考えをさらに深めようとする態度を育成する。交流の際には、受け入れるだけでなく、「なぜそう考えたのか」という問いかけをすることを意識させ、思考を深めていくことに留意する。

3 単元の目標及び計画（全5時間）

■単元の目標

『論語』に表れた孔子のものの見方や考え方を読み取り、他者の考えと比べることで、自分の考えを広くもつ力を育成できるようにする。

■単元の計画

第1次 『論語』の歴史的背景について知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第2次 4つの章句について孔子のものの見方・考え方を捉える・・・・・・・・・・2時間

第3次 『論語』がなぜ読み継がれているのかを考えをまとめる・・・・・・・・・・2時間（本時1／2）

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しもうとしている。	『論語』を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて自分の意見を考えている。	粘り強く『論語』に表れたものの見方や考え方を読み、自分の意見を伝えようとしている。

5 本時の学習

■目標 自分の体験をもとに、『論語』が現代まで読み継がれている理由を考えることができる。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

教材から読み取ったことと自分の経験や知識をもとに意見を考え、相手の意見から思考し、考えを再構築して伝えようとしている。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場合 小 : 小集団 個 : 個人) ㊟ : 留意点 ㊦ : 評価の観点 (方法)

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 前時の復習を行う。 ○教科書に載っている4つの章句の内容を確認する。	(1) 前時の内容に触れることで、『論語』の内容を確認する。	(全) 説明を通して、孔子のものの見方・考え方の共通理解ができるようにする。
2. 学習課題の設定	(2) 学習課題を設定する。 なぜ『論語』が読み継がれているのか、自分の体験をもとに考えよう。	(2) 授業の流れを確認し、生徒が見通しをもてるようにする。	(全) 説明を通して全体の見通しをもてるようにする。
3. 学習課題の追求 (考えの構築)	(3) 自分の考えをまとめる。 ・ワークシートに記入する。	(3) 問いを多様な考えが促されるものに設定することで、各生徒独自の考えを引き出す。その際、根拠となる体験や生活状況をもとに考えを構築させる。	(個) 個人思考の時間を取り、自分自身の考えをもたせる。
(考えの共有)	(4) 学習課題について班で考えを共有し、まとめる。 ホワイトボードに記入する。 ・教室で学んでいる状況、自分の心情と重なっている。 ・部活動や習い事の経験などから、誰もが共感できる内容になっている。	(4) 相手に自分の考えが伝わるよう、根拠となる体験や生活状況をもとに意見を述べさせる。その上で、グループで検討することで考えを広げる。 ㊟自分の体験をもとに、意見を書いている。 (ワークシート、観察) ㊦交流をする際に、意見の根拠(体験)を明確にすること、なぜその意見になるのか、互いに質問をしながら進めるように促す。質問のパターンやまとめるときの視点を提示し、活用するよう促す。気づきはワークシートにメモをさせる。	(個) → (小) 個人で考えた内容を共有し、お互いの意見を深めさせる。
	(5) 全体で考えを共有する。	(5) 全体で共有することにより、根拠となる体験が適切か問いかける。	(小) → (全) グループで考えた内容を全体で共有し、お互いの学びを深めさせる。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 本時のねらいから活動を振り返り、記入する。	(6) 交流を通して考えたことや気づいたことを記入させる。	(個) 全体で考えた内容をもとに、自分の考えに戻り、意見を構築する。